

第1章 香川大学学生生活実態調査について

(1) 調査の目的

香川大学学生生活実態調査は、香川大学の学生がどのような条件のもとで、どのような意識をもって学生生活を営んでいるのかといった、学生生活の実態を把握し、大学の諸施策の基礎的資料として活用することを目的としています。この調査は、1986年（昭和61年）の第1回以来これまでに14回実施されており、それぞれ報告書にまとめられています。

第1回調査	1986年（昭和61年）	第2回調査	1989年（平成元年）
第3回調査	1992年（平成4年）	第4回調査	1994年（平成6年）
第5回調査	1996年（平成8年）	第6回調査	1998年（平成10年）
第7回調査	2000年（平成12年）	第8回調査	2002年（平成14年）
第9回調査	2004年（平成16年）	第10回調査	2006年（平成18年）
第11回調査	2008年（平成20年）	第12回調査	2009年（平成21年）
第13回調査	2011年（平成23年）	第14回調査	2013年（平成25年）

この調査は、第1回から第3回まではおおむね3年ごとに実施してきましたが、社会人入学、外国人留学生の増加等多様化する学生や、急速に変化する大学の教育環境を明確に把握するため、第4回からは、2年ごとに実施することとしました。第11回から毎年実施することになりましたが、第12回から従来の2年に一回に戻すことになりました。

調査内容についても、経済状況などの基礎的な調査に加えて、その時々におけるトピックス的なテーマに関する調査を実施しています。

今回（第15回）は、トピックス的なテーマに関する調査として、新たに社会規範の遵守、犯罪の被害等に関する調査を実施しました。

(2) 調査実施期間

平成27年6月26日～8月5日

(3) 調査の対象と方法

調査に当たっては、ホームページまたは、教務システムから入力することとし、学部学生（但し、夜間主コース学生及び留学生を除く）名簿から、全学生の1/5を無作為にピックアップし、回答をお願いするはがきを送付しました。学部別、性別の回収数、回収率は、次頁に示すとおりです。

学部別、性別の回答数及び回答率

区 分		学生数 (人)	回答者数(人)	回答率 (%)
学 部 別	教 育 学 部	8 5 7	1 0 8	1 2 . 6
	法 学 部	6 8 4	1 2 8	1 8 . 7
	経 済 学 部	1, 2 2 5	1 7 3	1 4 . 1
	医学部医学科	6 9 1	4 4	6 . 4
	医学部看護学科	2 6 2	3 9	1 4 . 9
	工 学 部	1, 1 4 9	1 4 0	1 2 . 2
	農 学 部	6 5 6	8 1	1 2 . 3
学 部 別 合 計		5, 5 2 4	7 1 3	1 2 . 9
性 別	男 子	3, 2 1 2	3 8 6	1 2 . 0
	女 子	2, 3 1 2	3 2 7	1 4 . 1
性 別 合 計		5, 5 2 4	7 1 3	1 2 . 9

・法学部及び経済学部の夜間主コースの学生及び留学生は除いています。

(4) 調査の内容及び項目

調査項目の設定に当たっては、経済状況などの基礎的な事項に加え、今回はトピックス的な事項として、社会規範の遵守、犯罪の被害等に関する調査を実施しました。

設定項目は、「Ⅰ. 基本的事項について」「Ⅱ. キャンパスライフについて」に分けられています。それぞれの質問内容及び質問数は、以下のとおりです。合計で60問になっています。

- Ⅰ. 基本的事項 : 属性 (2問)、通学方法 (3問)、経済状況 (13問)
 Ⅱ. キャンパスライフ : 学業 (8問)、課外活動 (5問)、就職選択 (7問)、
 社会規範の遵守、犯罪の被害等 (10問)、健康 (12問)

(5) 集計と報告書の作成

入力された調査票はリアルタイムで集計を行い、ホームページで随時集計結果を確認できるようにしました。

さらに、報告書の作成に当たっては、主な調査項目について、学生支援センター会議委員が分析をおこないました。また、調査結果がわかりやすいように質問ごとに帯グラフを掲載しました。

なお、1年次生については、調査対象となった251名を大幅に超える461名の入力がありました。データを確認したところ回答者の重複はなく、また、入力の誤りによったものでもないことがわかりました。アンケートは、回答依頼のはがきを送付した調査対象者学生でなくても入力が可能なことから、調査対象外の学生がなんらかのきっかけでアンケート調査の存在を知り、入力したと考えられます。今回は正しく入力されたデータとして処理しましたが、今回はこのような事態が起きないように対処したいと考えています。